

令和 2 年度使用

小学校用教科用図書研究資料（総評）

【国 語】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備考
2 東京書籍	(1) 単元の配列については、4月を学習の基盤作りの期間として重視し、上巻頭に対話の仕方や情報の扱い方、図書館活用の仕方等を配置することで、一年間を通じて活用したい基礎的・基本的な事項を年度当初に指導できる工夫が見られる。	4年上 P10, 11 P12, 13 P28～31 3年上 P50
	(2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、各単元冒頭のページに、児童に学びの自覚を促す「つかむ」及び育成すべき力を示した「言葉の力」を明記し、単元末で振り返りの観点を示した「ふりかえる」及び「言葉の力」を提示している。また、各単元末の「てびき」で単元全体の中心的な課題となる「単元の問い」を設け、児童の学びを深めることができるような工夫が見られる。	4年下 P30, P52 P49
	(3) 学習効果や使用上の利便性については、児童にとって定着が難しい内容を身に付けさせることができるように、練習教材が配置されており、デジタルコンテンツを活用してさらに習熟を図ることができる工夫が見られる。	4年上 P4 P79
	(4) 内容や心情を正確に読み取る力を身に付けるために、「読むこと」の全ての単元に「言葉の力」を明記し、付けたい力を明確にして学習が進められるようにしている。また、単元で必要な既習の言語事項の説明を「おさえる」で示し、読解力を高める工夫が見られる。	4年上 P72～73
	(5) 指導事項の系統性・関連性をもたせるために、巻末に「前学年で学習した言葉の力」を掲載している。また、単元の導入の「おぼえているかな」で関連した言葉の力を提示することで、これまでの学習内容と関連付けて学習できるような工夫が見られる。	4年上 P154 P74

11 学校図書	(1) 単元の配列については、3年以上の上巻に「論理的思考力」、下巻に「感性的思考力」を育てる教材を配置することで、情報の整理の仕方等を演習を通して体感的に理解させ、他領域や他教科の学習で活用できる力を育てる工夫が見られる。	4年上 P78～83 4年下 P6～8
	(2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、4年以上の説明文教材で、同じ題材について書かれた複数の文章の構造や表現を比べて読む「比べ読み教材」を設定している。また、3年以上に情報の扱い方を演習させるための「論理的思考力教材」と「感性的思考力教材」を系統立てて設定し、各領域の学習や他教科等に生かすことができるような工夫が見られる。	4年下 P9～15 3年上 P62 3年下 P6
	(3) 学習効果や使用上の利便性については、適宜デジタルコンテンツを活用させることができるように、QRコードが単元内に掲載しており、1年の発音指導においては、動画により効果的な口形指導ができる工夫が見られる。	4年上 P13 P24
	(4) 内容や心情を正確に読み取る力を身に付けるために、単元を「読むこと」と「書くこと」を往還して進める構成にし、言葉の力を明確にして学習が進められるようにしている。また、「国語のカギ」では、学習に必要な技能や言語活動のヒントを示す工夫が見られる。	4年上 P66～77 P73
	(5) 指導事項の系統性・関連性をもたせるために、巻頭に見開きで問題解決的な学習過程に沿って学習内容を示している。また、「○学年でつきたい力」と「国語のカギ」を関連させながら、見通しをもたせて学習できるような工夫が見られる。	4年上 P11 P7 P73

17 教育出版	(1) 単元の配列については、一つの領域を集中して学習する「基本単元」と複数の領域を関連させながら学習する「関連単元」とをバランスよく配列することで、一年間の中で指導の重点化や効率化を図る工夫が見られる。	4 年上 P33～49 4 年下 P81～101
	(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、単元末の「てびき」の中に、想定される児童の発言例を示し、対話的な学びが図られるようにしている。また、「てびき」の中のキャラクターが、読み進める方法等の具体的な学びの観点を示しており、主体的な学習を進められる工夫が見られる。	3 年上 P128～129
	(3) 学習効果や使用上の利便性については、児童の学びを広げることができるように、作者等の経歴や他の著作物、教科書に掲載されている以外の古典等の発展的内容をデジタルコンテンツを活用して調べさせる工夫が見られる。	4 年上 P6 P69
	(4) 内容や心情を正確に読み取る力を身に付けるために、「読むこと」の単元で本教材の前に練習用教材を設定し、本単元で付けたい言葉の力を使って読めるようにしている。また、単元に「ここが大事」を設定し、本単元で付ける言葉の力の具体的な方法を明示する工夫が見られる。	4 年上 P34, 35 P45
	(5) 指導事項の系統性・関連性をもたせるために、巻頭に「言葉」について系統性を示し、一年間の学習の見通しがもてるようにしている。また、付録に「言葉のまとめ」や「学ぶときに使う言葉」を掲載し、文型や言葉を確認して進められる工夫が見られる。	4 年上 P6 4 年下 P143 P160

38 光村図書 出版	<p>(1) 単元の配列については、「読むこと」と「書くこと」等、領域を関連させて構成したり、短い説明文の「練習」教材の学習後に長い説明文教材を配置したりすることで、身に付けた力を次の学習にいかして指導できる工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、巻末「ことばの宝箱」で「考えや気持ちを伝える言葉・学習に用いる言葉」を提示したり、「季節の言葉」を重点的に取り上げたりして語彙を広げている。また、「情報の扱い方に関する事項」に焦点を当て、単元と関連させる工夫が見られる。</p> <p>(3) 学習効果や使用上の利便性については、デジタルコンテンツを活用できるように、QRコードが単元内に掲載しており、教材に関連する資料や人物等を調べさせたり、映像によって理解を深めさせたりする工夫が見られる。</p> <p>(4) 内容や心情を正確に読み取る力を身に付けるために、「読むこと」で学習課題を上下二段組で提示し、下段に思考や交流の具体的なポイントを示し、見通しをもって進められるようにしている。また、「たいせつ」では、単元で付けたい力がひと目で分かるような工夫が見られる。</p> <p>(5) 指導事項の系統性・関連性をもたせるために、巻頭に領域ごとに学習内容を示し、前学年の学びとのつながりを確認できるようにしている。また、巻末の「学習に用いる言葉」を本文教材と連動させ、反復しながら学習できるような工夫が見られる。</p>	<p>4 年下 P43～57 4 年上 P47～59</p> <p>6 年 P76, 77 4 年上 P9, P59 P86</p> <p>4 年上 P85</p> <p>4 年上 P26 P28</p> <p>4 年上 P5～8 4 年上 P159</p>
---------------	--	---